

平成 24 年度 第 4 回備前市公共交通会議 議事概要

1. 日時：平成 25 年 2 月 5 日（火） 13 時 30 分～14 時 40 分
2. 場所：備前市役所 3F 大会議室
3. 出席者：（敬称略）

（委員）

会長 西 岡 憲 康（市 長）
副会長 宇治橋 昭 彦（市自治会連絡協議会）
橋 本 成 仁（岡山大学大学院環境生命科学研究科 学識経験者）
三 村 功（総務部長）
岩 崎 透（市教育委員会）
大 本 一 栄（日生運輸株式会社）
香 西 正 巳（県タクシー協会和気支部）
藤 原 真（日生運輸株式会社）
藤 澤 健太郎（市自治会連絡協議会）
更 谷 暢 久（市自治会連絡協議会）
溝 邊 榮（市自治会連絡協議会）
三 宅 陽（市老人クラブ連合会）
寺 見 史 朗（市老人クラブ連合会）
山 本 啓 之（伊里小学校 P T A）
井 口 恭 子（吉永小学校 P T A）
石 原 利 信（JR 西日本岡山支社）
雄 島 仁（大生汽船株式会社）

（専門員）

岡 田 和 史（中国運輸局岡山運輸支局首席運輸企画専門官）
秋 本 理 恵（中国運輸局岡山運輸支局運輸企画専門官）
四 条 雅 之（岡山県県民生活交通課交通政策班主幹）
田 中 信 彦（岡山県備前県民局東備地域建設課主任）

（事務局）

企画課 4 名、教育委員会 2 名

（その他）

調査委託業者 2 名

4. 欠席者：（敬称略）

（委員）

宇 野 泰 正（宇野自動車株式会社）
井 上 邦 允（市老人クラブ連合会）
西 滝 道 雄（瀬戸内観光汽船株式会社）

（専門員）

本 山 伸 彦（備前警察署交通課課長）

5. 傍聴人：3 名（うち報道 1 名）

6. 議事

○開会

○あいさつ

○協議事項

(1) 備前市地域公共交通計画【案】について

○その他

・今後のスケジュール

○閉会

7. 【会議要旨】

○協議事項

(1) 備前市地域公共交通計画【案】について

《事務局》

資料1について説明

《質問・意見》

岡田専門員 利用促進という観点から、モビリティマネジメントの強化をぜひお願いしたい。バスの乗り方教室など、小さいうちから親しむことが大切である。地域づくりの観点からも、地域の人との交流の場としてバスは有効である。地域づくりの観点からも進めていってほしい。また、タクシーに関してもバスの補完機能を有していることを踏まえて検討してほしい。また、委員の皆さんには、ぜひ公共交通を利用してほしい。そうした中で気づいたことを、確認していただいて、公共交通会議で議論し、スパイラルアップにつなげていただけたらと思う。それから、高齢者ではバスの車内事故の事例が多い。車内で転倒し骨折するケースが多く、そうした対策や高齢者に対するモビリティマネジメントも検討してほしいと思う。

橋本先生 最後の運行基準の設定が気になる。具体的にどういうタイミングで行うかが書かれていない。ある程度の目途は書いておく必要があるのではないかな。これは最終目標年次に行うのか、毎年行うのか。また、評価指標はこの基準で良いのか。目標は「地域の生活を支える、まちづくりを支える」という話だが、地域活力の向上に資することを表す指標になっていないと思う。通常の、公共交通計画と同じ指標になってしまっている。たとえば、商業施設・医療施設前のバス停乗降者数などによって、間接的に評価できると思う。また、数年に1回のことであるならば市民にアンケートをとっても良い。また、運行基準の運用は「地域内公共交通検討にあたっての基本的な考え方を遵守し検討を行った上で」とあるが、これは事業内容②の考え方に過ぎない。これだけに従って運行基準の運用を考えてよいのか。本来は基本理念や基本目標、取組方針などを踏まえて、運行基準を運用しなければならないと思う。

事務局 運行基準の設定については、確かにまちづくりを推進するための公共交通の視点がなく、公共交通計画としての設定として考えていた。商業施設や医療機関の乗降者数などの指標についても検討したいと思う。基本目標に向けた運行基準の運用については、コンサルタントの意見を伺ってよろしいでしょうか。

調査委託業者 23 ページの指標はすべてを反映していないが、こちらは総合計画の中で示されている。運行基準については、基本目標に対しての目標は23 ページの評価指標を位置付けており、運行基準は路線一つ一つを見る際にどう考えていくかを記載している。30 ページにあわせるだけでいいのかという判断については、こちらは地域内の公共交通の考え方を示したものであり、これを見比べることによって、一つ一つの路線の考えは、これで考えられるのではないかと思います。このようにしまし

た。細かい数字の部分については、再度見返したいと思うが、大きな含みでは、運行基準は目標指標ではないことは、ご理解いただきたい。

橋本先生

総合計画で、23 ページの目標値が設定されている。そこで、週一回公共交通を利用している人の割合だとか、1 便当たり的人数だとか、あるいは税金投入額とかいうようなことがありますので、これに引きずられると、確かにこういう細かい目標ができると思うが、そもそもこの計画で合意したのは「まちづくり」と関連して考えていくということがポイントである。ですから総合計画の中の公共交通に関するところだけではなくて、総合計画の中の「地域の活性化」とか「まちづくり」に関連した目標設定にかかわってきてもおかしくはない。

なぜ、ここにこだわるのかというと、前回皆さんと議論していただいた中で、市民の移動ニーズが市内だけでなく周辺の市町に行きたいということがあっても、地域が発展するために、地域の中で生活できるようにしていきましょう。単純に行きたいところへ行けるバスを作るというのではなく、地域が持続可能になっていくようにそのための公共交通を作りましょう。ということが前提として今回の計画を作っているわけです。それが評価できるような指標であるべきです。単純に人が乗っている。乗っていない。収益が多い。少ない。それだけで議論してはどうしようもない。利用者数が少ない。確かにそういう地域は出てくると思いますが、それが、地域でお金をおとしてくれる。お買い物をしてくれる人であるとすれば、非常に重要な 1 名かもしれないし。まちづくりの活性化状況などを評価できる指標であるべきとおもいます。

実務的にこういうような指標を用いた方がやりやすい。あるいは他の自治体の計画をみてもこういう指標が示されているということを考えれば、こういう目標がでてくるというのはわかりますが、本市で考えているのは、そこをさらに超えたものとして、地域の持続可能性をきちんと考えよう。というようなことであろうと思いますので。もう少しふさわしいものが有った方が良かったのかなと思います。

事務局

市の施策評価、事務事業評価において指標設定を行っていて、指標の一部は市民意識調査というアンケート調査の結果を使用している。その中の設問などにおいても、新たな質問項目なども検討していきたいと思う。

副会長

先ほど専門員の岡田さんからあったが、しっかり公共交通を利用していこうという話があった。身の丈に合ったわが町を再生させる「まちづく」ということが、大きな本会議の目的である。しっかりと目を向けて採算性以外の観点も含めた評価を行う、新しい備前方式を行うという話が前回もあった。今回のご指摘もそういうことだと思う。その辺りの対応は可能かどうか。

事務局

公共交通の役割というものはあると思う。まちづくりに対して、どこまで公共交通だけでやっていけるか、さらにそれを公共交通の指標としてどのように設定していくか、難しい部分もある。先ほどあげたような施策との連携を図りながら、まちづくり、福祉、観光などと連携するなかで、力が発揮されていく部分もあると思う。

橋本先生

要するに追加する項目は考えられるのか。目標に対して責任をもてる指標はできるのか。

事務局

また先生にも相談させていただき、指標についても検討し直したいと思う。

橋本先生

数字について教えてほしい。総合計画の目標指標について、一便あたりの利用者

は増えているが、市からの投入額は維持していくとなっているが、これはどういう意味か。

事務局 年間一人当たり税金投入額の現状 2,000 円を 500 円以内の上昇にとどめることを目標として設定している。実際には人口が減少するため、一人当たりの支出額は増えていく。また架橋後の交通体系や、今回策定していく交通再編に伴う新たな施策の展開などによって、一時的には増えるということで、年間 2,500 円以内で実施していきたいということで考えている。

副会長 計画（案）については、このような形でよろしいか。

事務局 指標については再度先生と相談させていただきながら、修正したものを皆さんに配布し、パブリックコメントに向けて早急に対応したいと思う。

副会長 事務局が部分的に検討後、加筆・修正するというので、承認してよろしいか。

（拍手）

◎その他

《事務局》

- パブリックコメントを 2 月 8 日～3 月 9 日まで 1 か月間実施する。
- 地域での意見交換会ということで、2 月に備前、日生、吉永で実施する。市民の皆様に参加を呼びかけてほしい。
- 諸島地区は意見交換会を実施している。先日も鴻島で意見交換会を行った。また、現状を把握するためアンケートを配布した。アンケートについては、現在集計中である。

了